一　般　演　題　抄　録

5．時間外緊急総合診療部における小児科の現状について

岡田　満　篠原　徹　竹村　司
近畿大学医学部小児科学教室

平成14年10月から時間外緊急総合診療部が，近畿大学医学部附属病院に開設され2年が経過したが，小児科においても時間外受診状況の変化がみられた．開設以前は，受診歴のある患者，他の医療機関からの紹介患者および南河内地区南部の広域小児夜間救急の二次後送と大阪狭山市と美原町の小児夜間輪番診療の全ての二次救急を担当していた．開設後は，それらに加えて，受診歴のない患者ならびに救急隊からの一次搬送依頼の受け入れを開始した．

それに伴い，時間外受診者数と時間外入院数は倍増した．また全受診数の16%，全入院数の9%を小児科が占めていた．特に，平成14年の年末からのインフルエンザ流行時期には，小児科病棟が満床となり，他の病棟に小児患者を入院させなければいけない状況が続いた．また，現在の問題点として，時間外での電話相談，時間外受診の安易な利用および小児内科疾患以外の受診依頼などにより，入院中の重症患者に手が回らない状況がみられた．

6．手術室における停電

王　仁成　湯浅晴之　平井亜希子*　佐伯美帆*　高杉嘉弘　野本真生*
古賀義久
近畿大学医学部麻酔科学教室　*近畿大学医学部附属病院中央手術室

はじめに　手術室では安全な周術期管理を行う上で，多くの設備が作動電化している．これらの設備は電力の供給が停止すると，たくさんの患者が危機的状況にさらされることになる．本学中央手術室において平成16年10月8日，午前8時15分から約3分間の停電が生じた．その状況と今後の対策について検討したので報告する．

状況　午前8時から中央手術室への入室は始まっており，患者は中央手術室内所定のルームへと移動していた．予定症例は6件あり，そのうち4件は停電に遭遇した．残り2件は別棟の回路より電力供給を受けていた．停電したルームでは麻酔科医により，末梢静脈確保もしくは全身麻酔導入中であった．停電の影響で室内灯，心電図，自動血圧計，経皮的酸素飽和度測定器および麻酔器付属呼吸器は作動を停止した．全身麻酔導入中の麻酔科医は，モニタによる患者のバイタルの評価が不可能となり，薄暗いルームで聴視触診により患者を監視した．また麻酔機付属呼吸器が停止したため，バッグによる用手換気を余儀なくされた．

今後の対応の検討のために，当日中に中央手術室にいた医師，看護士，コメディクスに対し，停電当日午前11時にアンケート調査を実施した．

結果　医師9名，看護士16名，MEおよびコメディクス2名からアンケートの回答が得られた．停電時に患者全身麻酔導入していたのは48%，末梢静脈確保をしていたのは19%，手術の準備など麻酔や手術に関わりのない業務に従事していたのは33%であった．また，停電に対する対応として無停電電源の設置を求めるのは15%，手術室停電マニュアルの整備を求めるは55%，患者の安全と保護を主張するのは30%あった．なお今回の停電が原因である患者への医療過誤は生じなかった．

考察　今回の停電が生じた際は，手術予定症例が6件と通常8件と比して少なく，33%が手術や麻酔に関わっておらず，緊急時に対してマンパワーに余裕があり，医療過誤を生じる事がなかったと思われる．停電時に麻酔導入が重なり，しかも2症例の心臓外科麻酔があり，これらの患者を危機的な状況に追いやりかねなかったと考えられる．一方，この経験をふまえ停電マニュアルの整備を求める意見が多く認めた．

結語　今回の停電では，予定症例が少なく人手に余裕があったため，患者への医療過誤をもたらす事は無かった．全身麻酔中という患者の特殊な状況を鑑み，停電時の対応訓練の実施が急務である．